

1.		私	が	携	わ	っ	た	プ	ロ	ジ	ェ	ク	ト	の	概	要								
1	－	1	.	プ	ロ	ジ	ェ	ク	ト	の	特	徴												
	私	は	、	従	業	員	800	名	程	度	の	シ	ス	テ	ム	イ	ン	テ	グ	レ	ー	タ	A	社
に	勤	務	し	て	い	る	。	プ	ロ	ジ	ェ	ク	ト	管	理	業	務	に	携	わ	っ	て	約	3
年	に	な	る	。	A	社	の	顧	客	で	あ	る	B	病	院	か	ら	購	買	シ	ス	テ	ム	の
再	構	築	の	依	頼	が	あ	っ	た	。	た	だ	し	、	顧	客	条	件	と	し	て	次	の	2
つ	が	提	示	さ	れ	た	。	1	つ	は	、	予	算	制	約	が	あ	り	、	仮	想	化	ソ	フ
ト	を	使	い	ソ	フ	ト	ウ	エ	ア	の	新	規	購	入	を	減	ら	す	こ	と	。	2	つ	目
は	、	ハ	ー	ド	ウ	エ	ア	保	守	が	切	れ	る	12	月	ま	で	に	作	業	を	完	了	さ
せ	る	こ	と	で	あ	る	。																	
	当	社	の	提	案	が	無	事	に	B	病	院	に	承	認	を	さ	れ	、	私	は	本	プ	ロ
ジ	ェ	ク	ト	の	プ	ロ	ジ	ェ	ク	ト	マ	ネ	ー	ジ	ャ	に	指	名	さ	れ	た	。	プ	ロ
ジ	ェ	ク	ト	の	規	模	は	ハ	ー	ド	ウ	エ	ア	を	除	き	50	人	月	、	期	間	は	6
ヶ	月	で	あ	っ	た	。																		
1	－	2	.	プ	ロ	ジ	ェ	ク	ト	立	ち	上	げ	時	に	抱	え	て	い	た	問	題		
	プ	ロ	ジ	ェ	ク	ト	発	足	の	時	点	か	ら	、	す	で	に	2	つ	の	問	題	が	あ

氏名：

問：平成15年度 問3

設問ア

2/2

る	こ	と	を	私	は	認	識	し	て	い	た	。	1	つ	は	B	病	院	の	体	制	面	に	つ
い	て	で	あ	る	。	本	プ	ロ	ジ	ェ	ク	ト	は	、	仮	想	環	境	で	の	動	作	確	認
が	完	了	し	た	上	で	本	番	移	行	を	す	る	前	提	条	件	に	し	て	い	た	。	B
病	院	か	ら	予	算	上	の	都	合	に	よ	り	、	動	作	検	証	に	つ	い	て	は	B	病
院	の	要	員	が	中	心	と	な	っ	て	作	業	を	行	い	た	い	シ	ス	テ	ム	責	任	者
の	Y	部	長	か	ら	あ	っ	た	。	し	か	し	、	専	任	メ	ン	バ	が	1	名	で	他	の
5	名	は	兼	任	で	あ	る	事	を	私	は	確	認	し	た	。								
	2	つ	目	は	、	当	社	の	技	術	面	の	問	題	で	あ	る	。	仮	想	化	ソ	フ	ト
に	習	熟	し	た	技	術	者	が	少	な	い	た	め	、	本	プ	ロ	ジ	ェ	ク	ト	に	参	画
が	で	き	な	い	状	況	で	あ	っ	た	。	上	長	に	確	実	な	検	証	を	行	う	上	で
仮	想	化	ソ	フ	ト	に	習	熟	し	た	エ	ン	ジ	ニ	ア	の	参	画	が	必	須	で	あ	る
と	説	明	し	、	理	解	を	得	ら	れ	た	が	、	当	面	は	電	話	・	メ	ー	ル	で	の
支	援	に	と	ど	ま	る	と	の	回	答	で	あ	っ	た	。									
	以	上	の	通	り	、	B	病	院	に	お	い	て	は	専	任	者	が	少	な	い	。	当	社
に	お	い	て	は	適	切	な	技	術	者	が	ア	サ	イ	ン	で	き	な	い	状	態	で	プ	ロ
ジ	ェ	ク	ト	の	キ	ッ	ク	オ	フ	を	迎	え	る	こ	と	に	な	っ	た	。				

氏名：

問：平成15年度 問3

設問イ・ウ

1/5

2	.	私	が	行	っ	た	問	題	早	期	発	見	の	た	め	の	取	り	組	み				
2	－	1	.	想	定	さ	れ	る	問	題														
	私	が	、	プ	ロ	ジ	ェ	ク	ト	発	足	時	に	懸	念	し	て	い	た	問	題	が	解	決
さ	れ	な	い	場	合	、	プ	ロ	ジ	ェ	ク	ト	全	体	に	影	響	を	及	ぼ	す	も	の	と
し	て	次	の	3	点	が	挙	げ	ら	れ	る	。												
	1	つ	目	は	、	B	病	院	の	作	業	遅	延	で	あ	る	。	プ	ロ	ジ	ェ	ク	ト	期
間	が	6	カ	月	と	極	め	て	短	い	た	め	、	わ	ず	か	な	遅	れ	で	も	挽	回	す
る	こ	と	は	難	し	い	。																	
	2	つ	目	は	、	当	社	の	作	業	品	質	不	良	の	リ	ス	ク	が	あ	る	こ	と	だ
仮	想	化	ソ	フ	ト	は	、	購	買	シ	ス	テ	ム	担	当	の	メ	ン	バ	に	は	経	験	が
な	く	、	技	術	支	援	が	十	分	に	受	け	ら	れ	る	こ	と	が	確	実	に	シ	ス	テ
ム	移	行	を	完	了	さ	せ	る	た	め	に	必	須	で	あ	る	。							
	3	つ	目	は	、	上	記	二	つ	の	問	題	が	相	互	に	原	因	と	な	っ	て	費	用
超	過	を	起	こ	す	こ	と	で	あ	る	。	予	算	上	の	都	合	に	よ	り	、	コ	ス	ト
ダ	ウ	ン	を	B	病	院	の	Y	部	長	は	見	込	ん	で	い	た	た	め	、	費	用	超	過
は	許	さ	れ	な	い	。	以	上	の	通	り	、	プ	ロ	ジ	ェ	ク	ト	当	初	の	問	題	が

氏名：

問：平成15年度 問3

設問イ・ウ

2/5

解	決	さ	れ	な	い	と	、	品	質	・	コ	ス	ト	・	納	期	と	も	に	プ	ロ	ジ	ェ	ク
ト	全	体	に	影	響	を	与	え	る	事	が	想	定	で	き	る	。							
2	－	2	・	問	題	発	生	の	兆	候	発	見	お	よ	び	そ	の	分	析	項	目			
	プ	ロ	ジ	ェ	ク	ト	発	足	当	時	か	ら	捉	え	て	い	た	問	題	が	場	合	に	よ
っ	て	、	プ	ロ	ジ	ェ	ク	ト	全	体	に	影	響	を	及	ぼ	す	場	合	が	あ	る	。	私
は	、	把	握	し	て	い	た	問	題	に	対	し	て	、	そ	れ	ぞ	れ	管	理	項	目	を	設
け	て	問	題	の	早	期	発	見	に	注	力	し	た	。										
	1	つ	目	の	B	病	院	の	体	制	問	題	に	つ	い	て	は	専	任	者	を	増	や	す
こ	と	が	ベ	ス	ト	で	あ	る	が	、	人	手	不	足	の	た	め	実	現	で	き	ず	に	い
た	。	毎	週	火	曜	日	に	A	社	と	B	病	院	で	進	捗	会	を	実	施	し	て	い	た
の	で	、	B	病	院	の	メ	ン	バ	の	出	席	率	を	管	理	指	標	と	し	た	。	ユ	ー
ザ	主	体	で	の	検	証	で	あ	る	た	め	、	検	証	項	目	の	妥	当	性	、	検	証	が
順	調	に	進	ん	で	い	る	か	を	確	認	す	る	上	で	進	捗	率	の	確	認	は	重	要
で	あ	る	と	私	は	考	え	た	。	ス	ケ	ジ	ュ	ー	ル	に	余	裕	が	無	い	た	め	、
6	割	を	切	っ	た	場	合	は	Y	部	長	に	直	ち	に	連	絡	を	し	、	報	告	が	無
か	っ	た	メ	ン	バ	か	ら	メ	ー	ル	で	報	告	を	し	て	も	ら	い	問	題	が	あ	る

場	合	、	迅	速	に	対	応	で	き	る	よ	う	に	し	た	。								
	2	つ	目	は	、	当	社	の	体	制	に	つ	い	て	で	あ	る	が	、	社	内	の	進	捗
会	で	は	私	は	リ	ー	ダ	か	ら	の	み	報	告	を	受	け	て	い	た	。	こ	れ	で	は
問	題	が	表	面	化	し	て	か	ら	で	な	い	と	状	況	が	把	握	で	き	な	い	可	能
性	が	あ	る	と	考	え	た	。	つ	ま	り	、	メ	ン	バ	が	仮	想	化	ソ	フ	ト	の	使
用	法	に	つ	い	て	、	情	報	が	う	ま	く	取	得	で	き	な	い	、	他	部	署	の	メ
一	ル	・	電	話	支	援	で	は	解	決	が	困	難	な	問	題	に	あ	た	っ	た	等	の	問
題	を	い	ち	早	く	察	知	す	る	必	要	が	あ	る	。	そ	の	た	め	、	チ	ー	ム	リ
一	ダ	の	了	承	を	得	て	、	仮	想	化	ソ	フ	ト	に	関	す	る	問	題	で	予	定	よ
り	も	作	業	時	間	が	掛	か	り	そ	う	な	も	の	は	、	チ	ー	ム	リ	一	ダ	と	私
に	報	告	す	る	よ	う	に	指	示	し	た	。												
	3	つ	目	の	問	題	に	つ	い	て	は	、	上	記	2	つ	の	管	理	項	目	を	チ	ェ
ッ	ク	す	る	事	で	発	生	を	防	げ	る	と	判	断	し	た	。	以	上	の	取	組	み	に
よ	っ	て	、	想	定	さ	れ	た	問	題	に	つ	い	て	は	、	兆	候	の	レ	ベ	ル	で	検
知	す	る	事	が	で	き	た	。																
3	.	評	価	と	改	善	点																	

3	－	1	.	私	の	評	価																	
	私	は	、	本	プ	ロ	ジ	ェ	ク	ト	の	取	組	は	概	ね	評	価	で	き	る	も	の	で
あ	る	と	考	え	て	い	る	。	理	由	は	、	プ	ロ	ジ	ェ	ク	ト	発	足	当	初	、	両
社	と	も	に	体	制	面	の	問	題	が	あ	っ	た	が	、	あ	ら	か	じ	め	想	定	で	き
る	問	題	に	対	し	て	適	切	な	対	応	を	取	れ	た	か	ら	で	あ	る	。			
	こ	の	取	組	み	に	よ	っ	て	、	プ	ロ	ジ	ェ	ク	ト	の	制	約	で	あ	っ	た	予
算	に	つ	い	て	は	、	当	初	計	画	通	り	に	達	成	し	、	ス	ケ	ジ	ュ	ー	ル	に
つ	い	て	も	遅	延	無	く	引	渡	し	を	完	了	さ	せ	た	。							
3	－	2	.	今	後	の	改	善	点															
	今	回	の	プ	ロ	ジ	ェ	ク	ト	に	お	い	て	は	、	B	病	院	・	自	社	の	体	制
面	の	問	題	に	対	し	て	、	私	自	身	が	こ	の	よ	う	に	支	援	を	依	頼	し	よ
う	と	言	う	、	い	わ	ば	個	人	ベ	ー	ス	で	の	対	応	及	び	判	断	に	近	い	点
が	あ	っ	た	。	上	長	か	ら	了	承	を	得	た	上	で	の	対	応	で	あ	る	が	、	体
制	面	に	問	題	を	抱	え	た	プ	ロ	ジ	ェ	ク	ト	発	足	は	よ	く	あ	る	こ	と	で
あ	る	。	今	後	の	改	善	点	と	し	て	は	、	属	人	対	応	に	せ	ず	、	A	社	全
体	と	し	て	の	標	準	的	な	対	応	が	整	備	で	き	る	よ	う	に	、	私	も	こ	の

$5/5$ [illegible]

論文添削結果

2010.03.21 (株) テレコムリサーチ
添削者：佐藤 創

【添削情報】

論文提出者：●●●●●様
問題 : H 1 5 年度 問 3

【免責事項・その他】

本添削結果は、添削者個人の判断によるものであり、所属する会社や組織を代表する意見ではございません。また、本添削結果に即したからといって試験の合格を保証するものではありません。本添削結果の使用の結果生ずるあらゆる損害や被害について添削者は免責されるものとします。本添削結果の著作権は添削者に帰属します。

[目次]

1. 論文見出し構成の例
2. 論述すべき内容
3. 添削結果
4. 講評
 - (1) 添削結果の根拠について
 - (2) 講評の詳細
 - (3) 総評
5. 今後の学習に関するコメント

1. 論文見出し構成の例

以下に添削者が考える、本問題の見出し構成の例を示します。

1. 私が携わったプロジェクトの概要
 1. 1 プロジェクト概要
 1. 2 立ち上げ時に抱えていた問題
2. プロジェクト全体に波及する問題の早期発見
 2. 1 全体に波及すると想定した問題
 2. 2 問題発生の際の兆候の早期発見
 - (1) 兆候発見のための分析項目
 - (2) 兆候の早期発見
3. 評価と今後の改善点
 3. 1 活動の評価
 3. 2 今後の改善点

2. 論述すべき内容

以下に添削者が考える、問題文から読み取れる題意と、求められる論述内容について、1. 論文見出し構成例に沿って示します。

見出し	論述すべき内容	備考
1. 1	①プロジェクトの特徴、あなたの立場、求められる要件などを明記。 ・プロジェクト概要、プロジェクト体制 ・工期、工数、契約内容、担当工程など ・あなたの立場・役割 ・プロジェクトの制約事項・条件など ⇒今回の論文では、プロジェクト立ち上げ時点での制約に起因する問題の兆候を早期発見することを論ずる。よって、立ち上げ時点での制約などを布石として記載しても良い。	
1. 2	①プロジェクト立ち上げ時点での問題であること ⇒問題文にあるような、①顧客側担当者の参加が約束されていない、②一部要員の力量不足、③一部要員が兼任である、などの、プロジェクト立ち上げ時点で判明している問題を記述すること。論文では、これらの問題があるが、プロジェクトマネージャの判断でプロジェクトを立ち上げたという流れで記述する。	
2. 1	①1. 2で述べた問題の解決が遅れたり、不十分であったりするために発生すると想定される、プロジェクト全体に波及する問題であること ⇒1. 2と何の脈絡もない問題を挙げたり、プロジェクト全体に波及しない局所的な問題を挙げたりしてはいけない。	
2. 2	①2. 1で述べた問題発生の際の早期発見のために設定した分析項目であること ⇒問題を早期発見するために、なぜこのような分析項目が必要だったか、という点について論理的に記述されていることが重要である。 もちろん、1. 2で述べたプロジェクト立ち上げ時の制約が原因であるため、その点も踏まえて矛盾のない項目を述べること。 ②問題発生の際の兆候を早期発見したストーリーであること	

	⇒①で示した分析項目の監視によって、問題発生の兆候を早期発見したという展開で記述することが必要である。ストーリーの展開によっては、早期発見した後に適切な対策を打っていることも記述する必要があるかもしれない。	
3. 1	①プロジェクトの簡単な顛末と、活動内容について評価すべき点を記述すること	
3. 2	①論述内容に関連する改善点を記述すること	

本問題で重要なポイントは、プロジェクト立ち上げ時の制約を根本原因とした、プロジェクト全体に波及する問題の早期発見のために、適切な分析項目を設定していることです。分析項目を掲げた根拠や、分析項目の評価基準などを論理的に書けるかにかかっています。論理的に一貫していないと説得力がなくなってしまう問題ですので、論文構成を入念に行うことが大切だと思います。

3. 添削結果

添削者が考える論文評価結果を、A～Dランクに分けて示します。合格はAランクのみです。

評価ランク	内容	判定
B	合格水準にあと一歩である	不合格

※A～Dランクの評価内容は以下の通りです。

- A：合格水準にある
- B：合格水準にあと一歩である
- C：内容が不十分である
- D：出題の要求から著しく逸脱している

添削者が考える、各種の詳細な評価項目について、それぞれA～Dランクを示します。

評価項目	評価基準	評価ランク	内容
題意の適切な盛り込み	設問や問題文で求められる題意が適切に盛り込まれていること	B	合格水準にあと一歩
論理性	論述に根拠があり、論理的な内容になっていること ・行動や考えの背景として、経験や知識、分析結果に裏付けられた根拠が論述されていること ・行動した結果やプロジェクトの顛末を書いただけの論文になっていないこと ・論述が、具体的・定量的で、かつ論理的であること	B	合格水準にあと一歩
プロマネの創意工夫	プロジェクトマネージャとしての創意工夫・判断基準が盛り込まれていること ・プロジェクトマネージャらしい総合的な考え方（創意工夫）を論述していること ・プロジェクトマネージャの役割や責任を理解した上で、適切な行動等について論述していること ・専門用語などは本来の意味や目的を理解して用いていること	B	合格水準にあと一歩
文章表現	文章表現が適切で、かつ理解しやすい文章であること ・論文としてふさわしい文章表現であること ・文章の内容が理解しやすいこと ・助詞などの用法に誤りがないこと ・誤字脱字がないこと	B	合格水準にあと一歩

4. 講評

添削者が考える講評について示します。

(1) 添削結果の根拠について

評価ランクがBである理由は以下です。

1. 題意の適切な盛り込み

大筋はあっているが、幾つかの点で題意を満たしていないと感じる箇所がある。

- ①プロジェクト立ち上げ時に問題を抱えていながらも、プロジェクトマネージャの判断でプロジェクトを立ち上げたことについて述べられていない。
- ②問題の兆候を早期に発見するための分析項目に落とし込まれていないものがある。
- ③どのようにして問題の兆候を早期に発見したかの論述がない。

2. 論理性

いくつか論述の根拠について不足している箇所がある。

- ①B病院の要員の専任メンバが1名であることがなぜ問題なのかの根拠を述べたほうが良い。
- ②想定した問題がなぜ発生するのかの根拠が不足している。
- ③進捗会へのメンバ参加率を分析項目としたことの根拠をもう少し述べたほうが良い。
- ④活動の評価理由について、具体的な成果を述べたほうがよい。

3. プロマネの創意工夫

特に問題となるような箇所はなかった。ただし、特段優れていると感じられる箇所もなかった。

4. 文章表現

一部言葉が足りない箇所があるが、致命的なものではない。一カ所だけ主張したいことが伝わりにくい箇所があった。

- ①言葉が足りない箇所、主張が伝わりにくい箇所がある。

以下に詳細の講評と、総評を示します。

(2) 講評の詳細

詳細講評については、論文の流れに沿って設問Aから順に説明させていただきます。説明の内容が、(1) 添削結果の根拠 のいずれに相当するのかを各説明に示します。ただし、文章表現に関する指摘は最後にまとめて行います。

なお、講評中で例文を示すことがあります。あくまでも参考までとして頂ければ幸いです。もちろん例文をそのままご利用されること自体には全く問題はございません。それによる「文字数の配慮」、「論文の流れとの整合性」、等々につきましては十分ご考慮いただけますよう、宜しくお願い申し上げます。

(ア)〔評価項目：論理性 指摘番号：①〕

「1－2. プロジェクト立ち上げ時に抱えていた問題」において、「専任メンバが1名で他の5名は兼任である事を私は確認した」とありますが、専任メンバが1名だとなぜ問題なのか、どういった点が問題なのかについて、明確に文章にして述べる必要があったと思います。

例えば、「しかし、6名のメンバのうち専任メンバは1名しかいなかった。私は、B病院から提案された動員計画では、作業量と比較しても短納期のプロジェクトに対応できないリスクがあると考えた」といったように、問題点を明確に述べる必要があります。

(イ)〔評価項目：適切な題意の盛り込み 指摘番号：①〕

「1－2. プロジェクト立ち上げ時に抱えていた問題」においては、最終的には問題を抱えているにしても、プロジェクトマネージャの判断でプロジェクトを立ち上げたことを述べなければなりません。問題文には「部分的に問題を抱えたままプロジェクトマネージャの判断でプロジェクトを立ち上げる」と書かれています。

例えば、「以上のようなB病院側の動員力や、当社の技術面についてリスクが想定されるものの、大きな問題がなければ納期・予算を守れる見通しがついたため、私はプロジェクトの立ち上げを行う判断をした」といったような内容があると、なお良かったと思います。

本論文では、立ち上げ時に問題があるが、「特に対応できる目処も立たないままプロジェクトが立ち上がってしまった」といったニュアンスにも読めなくはありません。プロジェクトマネージャの論文としては、受身的な対応や場当たりの対応、事前の計画の不備などはあまり好ましく受け止められないと考えます。論文としては、プロジェクトがどんな状況にあっても、一定以上の計画を策定して、プロジェクトの未来のかじ取りを積極的に行うというプロマネ像を貫くことが大切だと考えます。

(ウ)〔評価項目：論理性 指摘番号：②〕

「2－1. 想定される問題」において、B病院の作業遅延という問題を想定していますが、なぜ作業遅延が想定されたのか、その根拠についての論述が不足していると感じました。この点、暗に想像することはできますが、論文である以上、明確に文章にして根拠を述べる必要があります。

同じく、自社作業において品質不良のリスクがあると述べていますが、なぜ品質不良という問題を想定したのか、その根拠の論述が不足していると感じました。具体的にはどんな状況になると、どんな現象が起き、それによって品質にどんな影響があると想定したのかを、明確に述べる必要があったと思います。

(エ)〔評価項目：論理性 指摘番号：③〕

「2－2. 問題発生時の兆候発見およびその分析項目」において、なぜメンバの進捗会への出席率を分析項目にしたのかの根拠が不足しているように感じました。なぜなら、進捗遅れを早期に発見するのであれば、メンバの進捗率をきちんと把握できていればそれで事足りると考えられるからです。なぜ、進捗率ではなく出席率であったのか、その理由について論述がほしいと感じます。

もし、進捗会に出席しないメンバの進捗率は把握できないので、それを把握するための分析項目であるのなら、やはり目的は進捗率の早期把握ですので、出席率よりも、進捗の遅れが早期に見えるようにするための分析項目を掲げたほうがよかったのではないかと思います。

例えば、従来は一週間単位の作業計画と進捗率を報告してもらっていたのであれば、タスクをさらに詳細なアクティビティ単位に分割して、日単位の作業計画と進捗率を分析項目とすることで、少しの遅れの兆候も把握できるようにした、といった内容などがより適切ではなかったかと思います。

(オ)〔評価項目：適切な題意の盛り込み 指摘番号：②〕

「2－2. 問題発生 of 兆候発見およびその分析項目」において、予定よりも作業時間がかかるものについては、プロジェクトマネージャにも報告させた、と述べられておりますが、分析項目にまで落とし込みができていませんでした。

そのため、どんな項目なのか、どの程度であれば問題だと判断するのか、などの具体的な内容について、論述内容から判断することができませんでした。分析項目なので、定量的な内容を述べるのが必須であったと感じます。

(カ)〔評価項目：適切な題意の盛り込み 指摘番号：③〕

「2－2. 問題発生 of 兆候発見およびその分析項目」において、分析項目をどのように運用したことで、問題の兆候を早期に発見できたのか、その論述が不足していると考えます。

設問文には、「どのようにして問題の兆候を早期に発見したか・・・具体的に述べよ」とありますので、この論述は必要不可欠であったと思います。この点、題意を満たしていないと判断しました。

(キ)〔評価項目：論理性 指摘番号：④〕

「3－1. 私の評価」において、プロジェクトの取り組みが評価できる理由について、「プロジェクトの問題に対して適切な対応が取れた」といった、定性的な内容を述べております。活動の評価の場合は、具体的な成果を提示して、こういった成果が得られたので活動については評価できる、と述べるのがセオリーです。

例えば、「問題を早期に発見し、対策を打ったことで、スケジュールは当初納期に間に合わせる事ができた。また、予算についても超過なく達成することができた」などといった具体的な成果を理由に述べるのが大切だと思います。

本論文では、後にこのような内容について述べているので、この論述を活動が評価できる根拠に用いると良かったのではないかと思います。

(ク)〔評価項目：文章表現 指摘番号：①〕

(1)

【設問】 ア

【ページ】 1 ページ

【行数】 6 行

【指摘内容】 言葉の説明が少し不足している

【指摘箇所】 ただし、顧客条件として次の2つが提示された。

【修正例】 ただし、顧客からはプロジェクトの条件として次の2つが提示された。

※説明が丁寧でないと、相手に意味が伝わりにくくなる場合があります。顧客条件という言葉もニュアンスはわかるのですが、正確な言葉ではありません。論文では、なるべく正確な言葉を用いるように意識すると良いと思います。自分ではわかっているつもりでも、読み手にはなかなか伝わらない場合があるからです。

(2)

【設問】ア

【ページ】1 ページ

【行数】7 行

【指摘内容】理由が理解できない

【指摘箇所】仮想化ソフトを使いソフトウェアの新規購入を減らす

【修正例】※当方仮想化ソフトについては詳しくないので見当違いの内容を言ってしまうかもしれませんが、素人考えだと仮想化を導入すると、1つのハードウェアで集中的にソフト等を管理できるので、ハードウェアの新規購入が減るように思っていました。なぜソフトウェアの新規購入が減るのか、読んだだけでは理解ができませんでした。正しい内容を述べたとしても、少しテクニカルな内容の場合は、多少その理由についても述べると読み手が理解しやすかったかと思います。

(3)

【設問】ア

【ページ】1 ページ

【行数】13 行

【指摘内容】人月計算にハードウェアは含まないのが通常

【指摘箇所】プロジェクトの規模はハードウェアを除き 50 人月

【修正例】プロジェクトの規模は 50 人月

※当方の見当違いであればご容赦頂きたいのですが、一般に人月計算の場合、ハードウェア費用は含まないと思います。プロジェクト予算にはハードウェア含む／含まない、という表現はありますが、人月は要員についての表現だと思います。

(4)

【設問】ア

【ページ】2 ページ

【行数】5 行

【指摘内容】脱字、口語的表現は不適切

【指摘箇所】B 病院の要員が中心となって作業を行いたいシステム責任者の Y 部長からあった。

【修正例】B 病院の要員が中心となって作業を行いたいとシステム責任者の Y 部長から提案があった。

(5)

【設問】ア

【ページ】2 ページ

【行数】14 行

【指摘内容】文章が中途半端に途切れている

【指摘箇所】以上の通り、B 病院においては専任者が少ない。当社においては適切な技術者がアサインできない状態でプロジェクトのキックオフを迎えることになった。

【修正例】以上の通り、B 病院においては専任者が少ないという問題を、当社においては適切な技術者がアサインできないという問題を抱えたまま、プロジェクトのキックオフを迎えることになった。

(6)

【設問】イ・ウ

【ページ】4 ページ

【行数】 10行目以降

【指摘内容】 主張したい内容が良く分からない。文章がまとまっていない。

【指摘箇所】 今回のプロジェクトにおいては、B 病院・自社の体制面の問題に対して、私自身がこのように支援を依頼しようと言う、いわば個人ベースでの対応及び判断に近い点があった。上長から了承を得た上での対応であるが、体制面に問題を抱えたプロジェクト発足はよくあることである。今後の改善点としては、属人対応にせず、A 社全体としての標準的な対応が整備できるように、私もこの経験を基に貢献していきたい。

【修正例】 ※主張したいことがまとまっていない印象を受けます。結論は、属人的な対応ではなく標準的な対応を整備したい、ということだと思いますが、具体的にはどんなことを標準化したいのでしょうか。内容が薄いため、今後の改善点について適切に把握できているのかを論文からは評価することができないと考えます。

(3) 総評

以下に本論文を振り返り、良かった点や指摘内容のまとめをさせていただきます。

題意はおおよそ把握できているのですが、プロマネの考えや行動の根拠の論述が比較的不足している印象を受けました。また、文章表現でも少し表現を簡略化している部分があり、もう少し丁寧な論述をすると、読み手にもきちんと伝わりやすい文章になるのではないかと思います。

1-1 節では、プロジェクトの背景について詳細に述べられており、この点は評価できると考えます。

1-2 節では、立ち上げ時点で抱えていた問題については適切に述べられており、問題の内容自体は特に問題はないと考えます。ただし、なぜ問題だと考えたかの根拠や、プロジェクトマネージャの判断でプロジェクトを立ち上げた点などを、1 行程度の簡潔な内容でもよいので、述べておけばなお良かったのではないかと思います。

2-1 節では、想定される問題がなぜ発生すると考えたのか、その根拠の論述が全般的に不足しております。この点の追記を望みます。

2-2 節は、分析項目が妥当であることの根拠が不足している点と、分析項目が明確に述べられていない点の修正が必要だと思います。また、どのようにして早期に問題の兆候を把握したのか、具体的な論述も必要です。

3-1 節は、プロジェクト納期や予算を達成できたことをメインの成果として、活動の評価を述べるようにすれば問題ないと考えます。

3-2 節は、主張したいことがまとめられていないため、活動からどんなことを教訓として学んだのかを評価することができませんでした。この点の修正を望みます。

5. 今後の学習に関するコメント

もう少しだけ、論述したことの根拠を丁寧に述べるように心がけるとよいと感じました。もし、論述が急ぎ足になってしまった理由が、試験時間が少ないためであるとするれば、ストーリー構成をもっとスムーズに終わらせるように、何度も題意の読み取りと、ストーリー構成を繰り返し訓練することが効果的なのかと思います。

ストーリー構成を中途半端なままで書き出してしまうと、どこかにシワ寄せが来てしまいます。できれば、ある程度はストーリー展開に自信が持てる状態で論文を書きだしたいところです。

以上